

平成 27 年度第 2 回
杵島地区新高校
設置準備委員会
(資料)

平成 27 年 7 月 27 日
佐賀県教育委員会

目次

	頁
資料 1	新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画 (第1次)第1回新高校設置準備委員会報告まとめ 1
資料 2	めざす学校像 3
資料 3	武雄・杵島地区の学科の状況 5
資料 4	新高校の学科構成について 14
資料 5	新高校設置準備委員会設置要領 21
資料 6	杵島地区新高校設置に向けた検討体制 23
資料 7	杵島地区新高校設置準備委員会委員構成 24

資料1 新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画（第1次）

第1回新高校設置準備委員会報告まとめ

1 開催日時・場所等

地区及び再編対象校	開催日時・場所	委員
杵島地区 ・ 白石高校 ・ 杵島商業高校	平成27年 5月26日（火） 10時～11時25分 白石高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 12人 県教育委員会関係委員 8人
伊万里地区 ・ 伊万里農林高校 ・ 伊万里商業高校	平成27年 5月27日（水） 15時30分～17時 伊万里農林高校 視聴覚室	学校関係委員 4人 地域関係委員 7人 県教育委員会関係委員 8人
唐津地区 ・ 厳木高校	平成27年 5月28日（木） 9時30分～11時 厳木高校 同窓会館	学校関係委員 3人 地域関係委員 5人 県教育委員会関係委員 9人
嬉野地区 ・ 塩田工業高校 ・ 嬉野高校	平成27年 5月28日（木） 15時～16時30分 塩田工業高校 視聴覚室	学校関係委員 4人 地域関係委員 10人 県教育委員会関係委員 8人
鹿島地区 ・ 鹿島高校 ・ 鹿島実業高校	平成27年 6月1日（月） 15時～16時35分 鹿島高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 11人 県教育委員会関係委員 8人

2 主な意見等

地区	主な意見等
杵島地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校舎制は初めての取組でイメージがわきにくいですが、先進的な事例も踏まえた具体的な提案をお願いしたい。 ・ 新高校に関する議論と並行して、現在の杵島商業高校、白石高校の生徒の今後に関して、意見を言う場を作ってほしい。 ・ 全国と比べて、佐賀県は普通科の比率が低い。グローバル化や産業技術の高度化への対応において、基礎基本の学力の重要性を踏まえて新高校を作ってほしい。 ・ 今までにない夢のある学校、生徒が集まるような学校をイメージしてほしい。
伊万里地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両校を合わせれば、他に類を見ない、おもしろい学校になると思う。卒業生がなるべく地元に残るような実業高校ができればと思う。 ・ 単位のとり方について、商業科の生徒が農業科の事も学べるようなカリキュラム編成ができれば、（新高校としての）個性が出せると思う。 ・ 人材育成については、地域ニーズを分析することが必要である。 ・ 進学する高校を選択するときに、部活動で選ぶ子どももいる。再編によって部活動の選択幅がひろがるのではないかな。

地区	主な意見等
唐津地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校は卒業後の進路保障が大事である。太良高校のようにキャリア教育の推進に重点的に取り組む必要がある。 ・ 地域に根ざした学校に、地域住民がどういった手伝いができるか、その方向性を検討する必要がある。 ・ 発達障害の生徒を指導できる教員の育成も重要である。 ・ 参考とするために、既に取組を行っている太良高校を視察させてもらいたい。
嬉野地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 再編後、更に定員が1クラス減ることを踏まえたビジョンが必要だ。 ・ 再編後の学校を新しい学校としてみてもらわなければならない。校舎制により、足して2で割るのではなく、両校が合わさることでの相乗効果を求めている。 ・ 例えば、工業系列を持つ校舎制の総合学科で、部活動はそれぞれの校舎で分けて実施するとし、市はこれに対して支援を行うというような構想を作っていければと思う。 ・ 地域創生の時代であり、地域の特性を生かし、地域人材を育成できればと思う。
鹿島地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新高校の1クラスの定員を、少人数クラス編制にすることは考えられないか。 ・ 両校の目標である進学と就職両面の充実をいかに図っていくかが最重要事項である。その上で学校としての整合性を保たなければならない ・ 「当面、校舎制」とあるが、できるだけ早く1つの校舎で学ばせてほしい。人間教育にもつながる。 ・ (高校受検で)学科ごとに第1、第2希望と選べるならば、生徒の選択の幅が広がる。部活動も、質・量ともに充実し、魅力となる。

資料2 めざす学校像について

白石高校・杵島商業高校 教育目標等比較

1 教育目標

【白石高校】

校訓「清明・自律・創造」のもとに、高い志と進んで責任を遂行する強い意志を持ち、社会に貢献できる、知・徳・体の調和のとれた心身ともに健全な人材を育成する。

【杵島商業高校】

「生き抜く力」を育む指導をとおして、生徒一人ひとりの優れた資質を伸ばし、経済社会の発展に寄与する有意な人材の育成を目指す。

2 校訓

【白石高校】

清明・自律・創造

【杵島商業高校】

信・愛・熱

3 目標達成のための学校経営ビジョン

【白石高校】

- ① 生徒一人ひとりの学習状況等に応じた『伸ばす教育・伸びる教育の推進』
- ② 生徒一人ひとりの関心・意欲に応じた『進路ガイダンスの充実』
- ③ ハイレベルな文武両道を目指す『質の高い授業と行事・部活動のバランス』
- ④ 規範意識や礼節、報恩感謝などの素養を育むことによる『品格のある校風の醸成』
- ⑤ 家庭や地域社会との相互理解による『信頼される学校づくり』

【杵島商業高校】

- ① 生徒の夢を育み、その実現に向けた実践力を育成する。
- ② ビジネス教育を推進し、グローバルな視点を持ち地域社会の発展に寄与しうる生徒を育成する。
- ③ 生徒の人格を尊重し、基本的な生活習慣を身につけさせ、思いやりの心を持った生徒を育成する。
- ④ 授業と部活動に情熱を傾け、確かな学力と逞しい心と体を育成する。

4 育成したい人材の分析

	白石高校	杵島商業高校
育成したい人材	<ul style="list-style-type: none"> ・高い志と責任遂行の強い意志を持つ ・社会に貢献できる ・知・徳・体の調和 ・心身の健全さ ・ハイレベルな文武両道を実践 ・規範意識、礼節、報恩感謝などの素養を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生き抜く力」を持つ ・経済社会の発展に寄与する ・実践力を持つ ・グローバルな視点を持つ ・地域社会の発展に寄与する ・基本的な生活習慣を身につける ・思いやりの心を持つ ・情熱を持つ ・確かな学力、逞しい心を持つ
⇒ 共通エッセンス		
<ul style="list-style-type: none"> ・高い志、情熱 ・責任遂行の強い意志、実践力 ・社会貢献、経済社会、地域社会の発展に寄与 ・専門性(知性、職業人) ・規範意識、礼節、基本的な生活習慣 ・報恩感謝、思いやり ・ハイレベル文武両道、確かな学力 		



5 第1回設置準備委員会における委員の意見

- ・基礎的な学力、教養を身につけることが必要である。
- ・夢のある、誰もが通いたくなる学校であってほしい。
- ・今までに聞いたことのないような特徴を持たせてほしい。
- ・生徒の進路ニーズに応える学科・コースの設置が必要。



《めざす学校像（案）》

- 【A案】
- ① 知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健全な人格の育成をめざす学校
 - ② 生徒の夢が実現できる学校
 - ③ 地域から愛され信頼される学校

- 【B案】
- ① 地域社会に信頼される学校
 - ② 生徒の夢を育み、成長させる学校
 - ③ 規範意識や自尊感情を高め、感謝や思いやりの心を育てる学校
 - ④ 授業と部活動に情熱を傾け、確かな学力と逞しい心と体を鍛える学校
 - ⑤ 国際社会で活躍できる、広い視野を持った生徒を育成する学校

- 【C案】 熱い志とともに、誠実さや社会的規範意識を備えた品位ある（健全な）人格形成を促し、基本的な学力・教養と、さらなる専門的知識・技能を獲得し、地域社会及び国際社会に貢献できる有為な人材の育成に努める学校。

資料3 武雄・杵島地区の学科の状況

1 配置

武雄・杵島地区の学科及び募集定員

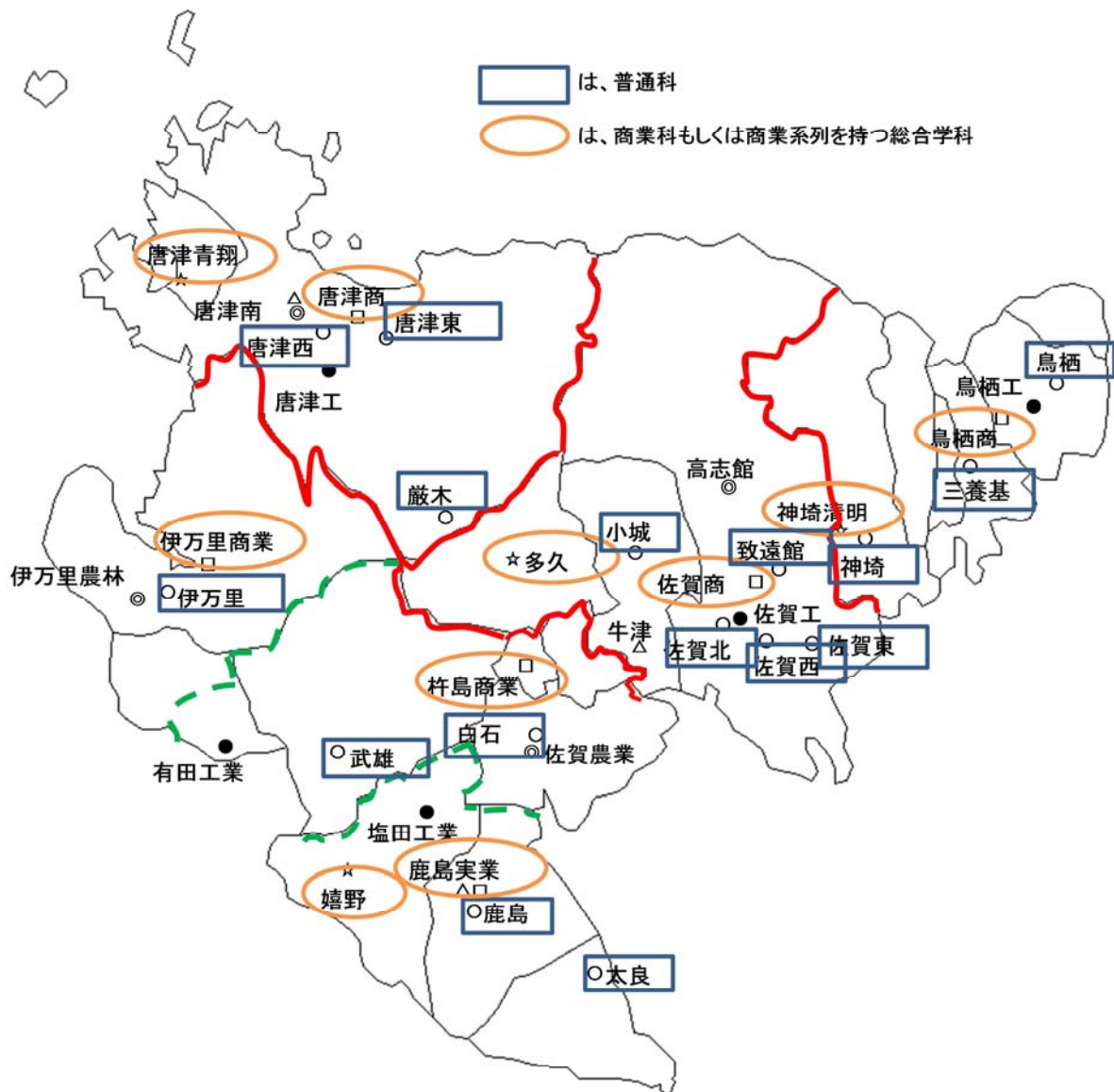
普通科 440 人（11 学級規模）

（白石高校 160 人、武雄高校 280 人）

専門学科 440 人（11 学級規模）

（商業科：杵島商業高校 120 人、農業科：佐賀農業高校 120 人、工業科：有田工業高校 200 人）

【普通科及び商業科（商業系列を含む）の全県配置】



2 武雄・杵島地区の高校別志願状況

地区	学校名	H22入学生			H23入学生			H24入学生			H25入学生			H26入学生			H27入学生		
		9月	11月	後期	9月	11月	後期	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般
武雄 杵島 地区	武雄	1.09	1.01	1.02	1.13	0.95	0.98	1.05	1.12	0.91	1.32	1.20	1.25	1.15	1.14	0.94	1.13	1.15	1.13
	白石	0.94	0.91	1.14	0.89	0.99	1.03	1.01	0.96	1.04	0.87	0.83	1.05	0.81	0.86	0.85	0.87	0.90	0.97
	佐賀農業	1.19	1.14	1.06	0.92	0.89	1.03	1.74	1.51	1.52	1.35	1.45	1.21	1.23	1.25	1.30	1.36	1.26	1.18
	有田工業	1.47	1.33	1.25	1.10	1.12	1.10	1.38	1.31	1.20	1.15	1.17	1.09	1.23	1.19	1.03	1.14	1.11	1.20
	杵島商業	0.79	0.98	1.09	0.78	0.93	1.14	0.87	0.97	1.16	0.70	0.87	1.08	0.99	1.01	1.09	0.64	0.78	1.00
西部学区計		1.07	1.07	1.10	1.03	1.03	1.07	1.08	1.08	1.09	1.07	1.08	1.13	1.07	1.06	1.05	1.02	1.01	1.05

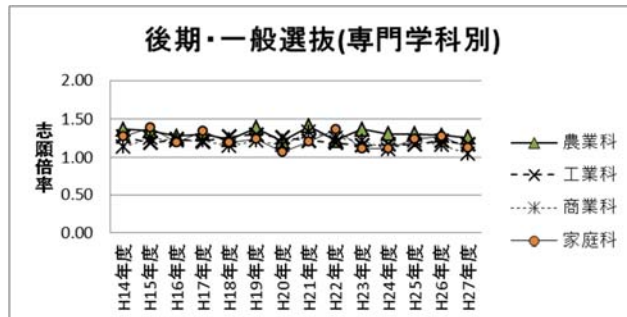
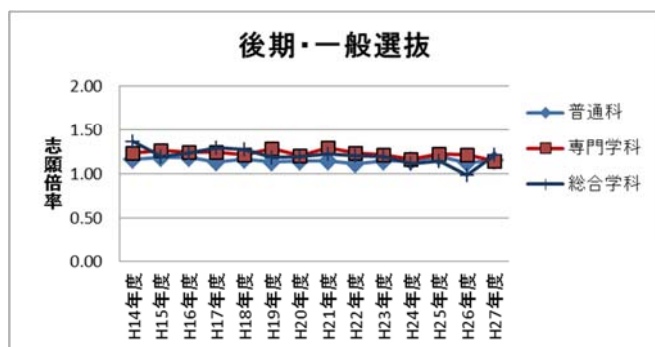
※網掛けは1.00倍未満

※後期(または一般)倍率は、志願変更後の倍率である。

【参考1 県全体の学科別志願状況】

後期・一般	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
普通科	1.11	1.14	1.14	1.19	1.12	1.15
専門学科	1.23	1.21	1.16	1.22	1.21	1.14
農業科	1.22	1.37	1.31	1.31	1.29	1.26
工業科	1.19	1.16	1.17	1.17	1.22	1.17
商業科	1.25	1.22	1.10	1.22	1.16	1.05
家庭科	1.37	1.11	1.11	1.24	1.27	1.13
総合学科	1.20	1.19	1.11	1.14	0.98	1.21
県立全体	1.16	1.17	1.15	1.20	1.15	1.15

理数科及び芸術科は普通科に含む。



【参考2 商業科の小学科別志願状況】

大学科	小学科	H22入学生			H23入学生			H24入学生			H25入学生			H26入学生			H27入学生		
		9月	11月	後期	9月	11月	後期	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般
商業		1.28	1.24	1.25	1.25	1.25	1.22	1.24	1.20	1.10	1.16	1.19	1.22	1.20	1.14	1.16	1.11	1.10	1.05
<<り募集 は商業系 に含む	商業系	1.36	1.27	1.24	1.27	1.30	1.27	1.24	1.23	1.10	1.18	1.20	1.21	1.29	1.19	1.18	1.13	1.14	1.09
	情報系	1.02	1.14	1.20	1.20	1.09	1.07	1.21	1.13	1.09	1.06	1.13	1.25	0.90	0.81	1.08	1.04	0.95	0.93
	その他	1.20	1.30	1.68															

※網掛けは1.00倍未満

※後期(または一般)倍率は、志願変更後の倍率である。

3 武雄・杵島地区の中学生の進路状況

武雄・杵島地区の中学生の進路状況を分析すると、約8割が県内公立高校に進学しており、普通科と専門学科がほぼ4割ずつである。地域としては約7割の生徒が、地元である旧西部学区へ進学している。

【上段：人数】

【下段：卒業生に対する割合(%)】

武雄・杵島 地区 中卒者進路	全日制			定時制 ・ 通信制	高専 ・ 特別 支援	就職等 左記 以外	卒業 者数
	県内 公立	県内 私立	県外 公私立				
平成23年 3月卒	927	98	14	12	19	40	1,110
	83.5	8.8	1.3	1.1	1.7	3.6	
平成24年 3月卒	932	158	21	26	22	28	1,187
	78.5	13.3	1.8	2.2	1.9	2.4	
平成25年 3月卒	918	155	26	17	22	13	1,151
	79.8	13.5	2.3	1.5	1.9	1.1	
平成26年 3月卒	908	139	23	15	18	16	1,119
	81.1	12.4	2.1	1.3	1.6	1.4	
平成27年 3月卒	855	141	20	8	17	24	1,065
	80.3	13.2	1.9	0.8	1.6	2.3	
5年集計	4,540	691	104	78	98	121	5,632
	80.6	12.3	1.8	1.4	1.7	2.1	

白石高校及び杵島商業高校への通学状況

両校とも、入学者の半数近くが地元の出身である。

単位：%

	旧東部	旧中部	旧北部	旧西部		県外等
					うち杵島郡	
白石高校	0.5	9.2	0.4	89.5	45.0	0.4
杵島商業高校	0.4	23.0	0.0	76.5	44.0	0.2

注)平成23年～平成27年度の高校1年在籍者の出身中学校を基に、旧学区ごとの割合を示す。(各年度5月1日現在)

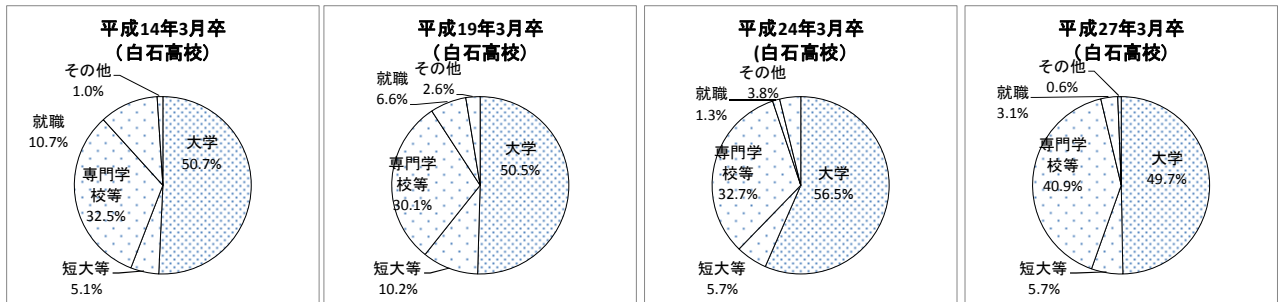
4 高校卒業後の進路状況

(1) 普通科

白石高校

- ・ 大学進学者の割合は、卒業生の約5割である。
- ・ 専門学校等への進学者が増加傾向である。多いのは、医療系で、専門学校進学者の7割近くを占めている。
- ・ 割合としては低いですが、就職者もあり、公務員が多い。

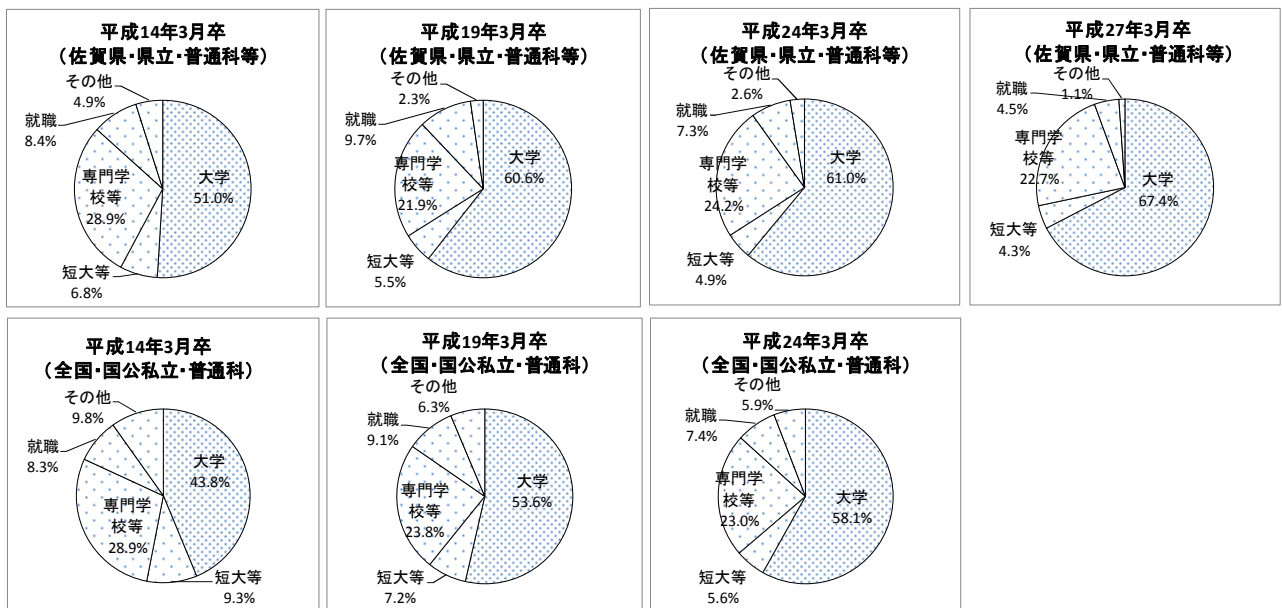
【白石高校卒業後の進路状況】



【参考 本県及び全国の普通科卒業後の進路状況

上段：佐賀県・県立・普通科等

下段：全国・国公立・普通科】

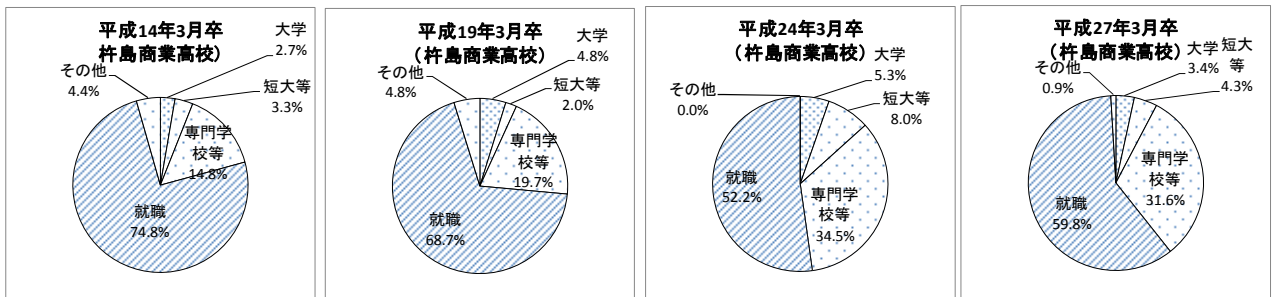


(2) 商業科

杵島商業高校

- ・ 進学者の割合が増加傾向である。これは、商業科の全国的な状況でもある。
- ・ 大学進学者の学部は、主に経済学部や商学部である。
- ・ 短期大学進学者については、幼稚園教諭や保育士を目指す生徒が多い。
- ・ 専門学校等の内訳としては、ビジネス系の他、医療系へ進学する生徒も多い。
- ・ 就職先を職業別に見ると、事務、販売、サービス関係の職業に就いた生徒が、就職者の約7割である。

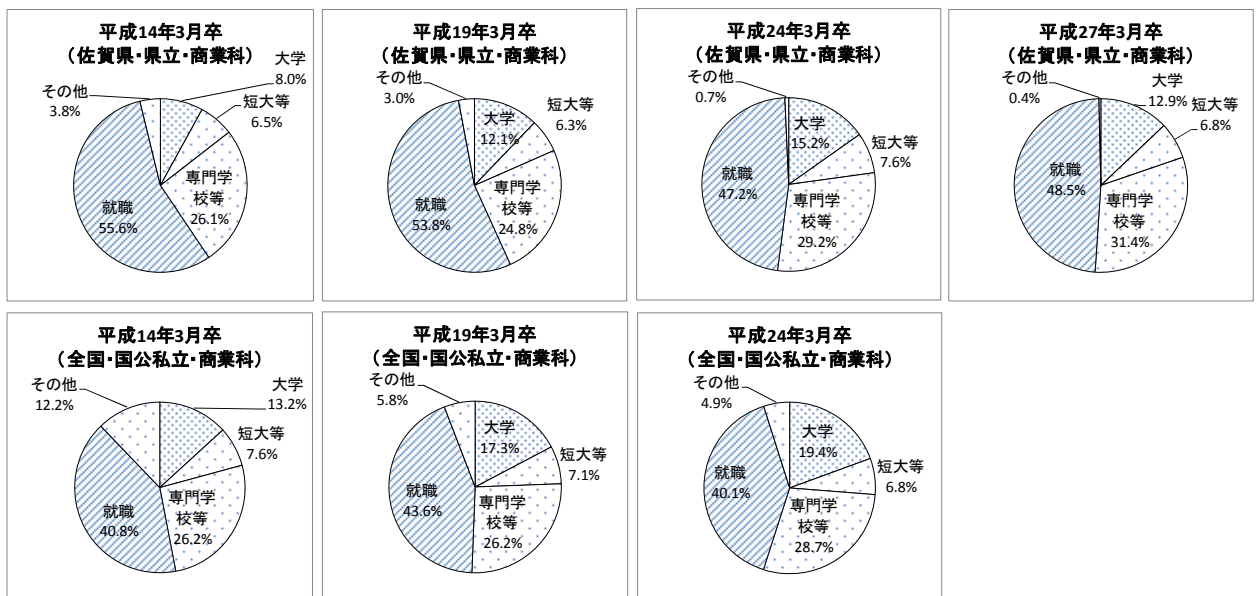
【杵島商業高校卒業後の進路状況】



【参考 本県及び全国の商業科卒業後の進路状況

上段：佐賀県・県立・商業科

下段：全国・国公立・商業科】



白石高校、杵島商業高校の卒後進路状況

【白石高校】

		大学	(うち国公立)	短期大学	各種 専門学校	職業能力 開発施設	就職	その他	卒業者計
H25.3卒	男	64	(16)	2	34	0	10	1	111
	女	45	(10)	8	29	0	1	2	85
	計	109	(26)	10	63	0	11	3	196
	割合	55.6%	(13.3%)	5.1%	32.1%	0.0%	5.6%	1.5%	100.0%
H26.3卒	男	46	(13)	1	29	3	1	4	84
	女	27	(3)	10	31	0	3	1	72
	計	73	(16)	11	60	3	4	5	156
	割合	46.8%	(10.3%)	7.1%	38.5%	1.9%	2.6%	3.2%	100.0%
H27.3卒	男	41	(12)	1	22	4	4	1	73
	女	38	(8)	8	39	0	1	0	86
	計	79	(20)	9	61	4	5	1	159
	割合	49.7%	(12.6%)	5.7%	38.4%	2.5%	3.1%	0.6%	100.0%

〈各種専門学校〉

		ビジネス系	医療・看護・ 介護系	その他	専門学校 計	卒業者計
H25.3卒	男		14	20	34	111
	女		19	10	29	85
	計		33	30	63	196
	割合		16.8%	15.3%	32.1%	100.0%
H26.3卒	男	7	3	19	29	84
	女	0	15	16	31	72
	計	7	18	35	60	156
	割合	4.5%	11.5%	22.4%	38.5%	100.0%
H27.3卒	男	7	9	6	22	73
	女	3	30	6	39	86
	計	10	39	12	61	159
	割合	6.3%	24.5%	7.5%	38.4%	100.0%

- ・ 全体の50%~60%が大学・短大へ進学(そのうち12%~13%が国公立4年制大学)。
- ・ 専門学校進学者は全体の30%~40%。そのうち医療・看護・介護系の比率が高く、27年度はおよそ1学級分(40人)を占めている。

【杵島商業高校】

		大学	(うち国公立)	短期大学	各種 専門学校	職業能力 開発施設	就職	その他	卒業者計
H25.3卒	男	6	(1)	0	12	1	20	1	40
	女	1	0	2	29	0	43	0	75
	計	7	(1)	2	41	1	63	1	115
	割合	6.1%	(0.9%)	1.7%	35.7%	0.9%	54.8%	0.9%	100.0%
H26.3卒	男	5	(1)	1	11	1	29	0	47
	女	2	0	5	15	0	40	0	62
	計	7	(1)	6	26	1	69	0	109
	割合	6.4%	(0.9%)	5.5%	23.9%	0.9%	63.3%	0.0%	100.0%
H27.3卒	男	3	0	1	14	0	24	0	42
	女	1	0	4	23	0	46	1	75
	計	4	0	5	37	0	70	1	117
	割合	3.4%	(0.0%)	4.3%	31.6%	0.0%	59.8%	0.9%	100.0%

〈各種専門学校〉

		ビジネス系	医療・看護・ 介護系	その他	専門学校 計	卒業者計
H25.3卒	男	5	2	5	12	40
	女	6	10	13	29	75
	計	11	12	18	41	115
	割合	9.6%	10.4%	15.7%	35.7%	100.0%
H26.3卒	男	4	4	3	11	47
	女	1	8	6	15	62
	計	5	12	9	26	109
	割合	4.6%	11.0%	8.3%	23.9%	100.0%
H27.3卒	男	4	8	2	14	42
	女	8	8	7	23	75
	計	12	16	9	37	117
	割合	10.3%	13.7%	7.7%	31.6%	100.0%

- ・ 全体の60%前後が就職。
- ・ 大学進学者はそれほど多くないが、専門学校への進学者は30%前後いる。そのうち医療・看護・介護系が10%を超え、ビジネス系の専門学校進学者より多い。

5 学科の特色（現況）

普通科（白石高校）

1 学科の方針

（1）目標

- ・ 生徒個々の学力や学習状況を踏まえた上で、進路希望達成のため、一般的な教養はもとより、受験に必要な基礎学力の確立に努め、さらには発展的な知識の習得を図る。

（2）求める生徒像

- ・ 清く明るい豊かな心と自主自立の精神を持ち、創造性豊かで社会貢献をしようとする高い志を持った生徒
- ・ 文武両道のもと、学習活動・部活動・生徒会活動・ボランティア活動等に積極的に取り組むことができる生徒
- ・ 将来の「夢」を持ち、その実現に向けて切磋琢磨しながら心身の鍛錬に励むことができる生徒

2 教育体制

- ・ 2年次（文系3クラス、理系1クラス）
- ・ 3年次（国公立文系クラス、私立四大・公務員・専門学校クラス、看護・医療系クラス、国公立理系クラス）
- ・ 少人数クラス展開（1年：数学 2年：英語、数学 3年：英語、数学）

3 成果、特別活動等

（1）取得できる主な資格

- ・ 実用英語技能検定2級
- ・ 日本漢字能力検定2級
- ・ GTEC for students 600程度（英語検定2級に相当）

（2）特別活動等については、特になし

商業科（杵島商業高校）

1 学科の方針

（１）目標

『ビジネス実践力を身につける』

～即戦力となる社会人を目指して～

（２）求める生徒像

- ・ 商品開発やEビジネスなどのマーケティング活動に興味関心を持ち、実践的な学習に対し、自主的に取り組むことができる生徒。
- ・ ネットショッピングモール「がばいよか！きしま学美舎」などの体験活動を通じ、地域社会や経済社会に貢献しようと考えている生徒。

2 教育体制

- ・ 1年次商業科は80名を3クラス編成として、少人数指導を行い、高校の学習や生活に適応しやすい環境を整えている。
- ・ 2・3年次の専門教科（「簿記」や「情報処理」など）では少人数指導を行い、個別指導が行いやすい環境を整えている。
- ・ 2・3年次には専門教科内での選択科目を多く設定し、生徒の進路および興味関心に対応できるようにしている。
- ・ 3年次「課題研究」では『現場で磨くビジネス実践力』をテーマに掲げ、主に地域での校外実習など体験的な学習を多く取り入れることで、学習内容の充実を図っている。

3 成果、特別活動等

（１）取得できる主な資格 全商は全国商業高等学校協会主催の検定です。

- ・ 全商簿記実務検定1級
- ・ 全商情報処理検定ビジネス情報部門2級
- ・ 全商珠算・電卓実務検定1級
- ・ 全商ビジネスコミュニケーション検定 など

（２）特別活動等

- ・ 生徒商業研究発表大会出場
- ・ ICTプレゼンテーション大会出場

情報処理科（杵島商業高校）

1 学科の方針

（１）目標

『ICT社会をリードする』

～使う・使いこなす・表現するプロフェッショナルを目指して～

（２）求める生徒像

- ・ コンピュータ関係に興味関心が強く、高度に使いこなすために必要な知識と技能を身につけ、高度資格取得に意欲的に取り組みたい生徒。
- ・ コンピュータを活用して、情報を表現し、広く外に発信することに興味関心があり、プレゼンテーション能力、クリエイティブ能力の育成に力を注ぎたい生徒。
- ・ ネットショッピングモール「がばいよか！きしま学美舎」など、実践的な電子商取引に興味関心があり、コンピュータを活用して積極的に地域社会で活躍したい生徒。

2 教育体制

- ・ 情報処理科単独の実習室を使い、情報関連科目では複数教員を配置することで学習内容の理解や技能の充実を図っている。
- ・ 1年次に情報関連科目「情報処理」4単位と「プログラミング」4単位について集中履修（前半に「情報処理」、後半に「プログラミング」）を行い、1年間で情報処理の基礎を着実に身につけられるよう工夫している。
- ・ 2・3年次には専門教科内または他教科との選択科目を多く設定し、生徒の進路および興味関心に対応できるようにしている。
- ・ 3年次「課題研究」では『現場で磨くビジネス実践力』をテーマに掲げ、主に地域での校外実習など体験的な学習を多く取り入れることで、学習内容の充実を図っている。

3 成果、特別活動等

（１）取得できる主な資格 全商は全国商業高等学校協会主催の検定です。

- ・ 全商情報処理検定ビジネス情報部門1級
- ・ 全商情報処理検定プログラミング部門1級
- ・ 全商簿記実務検定1級
- ・ 全商珠算・電卓実務検定1級
- ・ 全商ビジネスコミュニケーション検定 など

（２）特別活動等

- ・ 生徒商業研究発表大会出場
- ・ ICTプレゼンテーション大会出場

資料4 新高校の学科構成について

- 1 新実施計画（第1次）における新高校の学科についての基本的な考え方
「現在の学科を基本として、地域の意見も聞きながら検討する。」こととしている。
- 2 杵島地区新高校学科構成パターン

杵島地区新高校学科構成パターン

学科構成		メリット・デメリット等
①	普通科3学級 + 商業科2学級 (商業科1学級+情報処理科1学級)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現行の体制を引き継ぎやすく、混乱は最も少ないかと考えられる。 ○ 商業科において、2つの小学科が維持できる。 ● 旧高校からの変化が乏しい。 → 教育内容や新たな制度(総合選択制等)、授業形態等を検討することによって、新高校としての特色を出していく必要がある。
②	普通科3学級 + 商業科2学級 (商業科2学級 or 商業科1学級+新小学科1学級)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現行の体制を引き継ぎやすく、混乱は最も少ないかと考えられる。 ○ 新しい学科を設置することで、新高校の特色や方向性を示すことができ、学校の活性化へとつなげられる。 ● 情報処理科をはずすことになれば職員配置の減(教諭2名、実習教諭2名)となる。
③	普通科3学級 (うち1学級は特別なコースを設置) + 商業科2学級 (商業科1学級+情報処理科1学級)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現行の体制を引き継ぎやすく、混乱は最も少ないかと考えられる。 ○ 普通科内に新しいコース(国際コース、理数コース等)を設置することで、新高校の特色や方向性を示すことができ、学校の活性化へとつなげられる。 ● 地域のニーズと進路保障についての検討が必要である。
④	普通科2学級 + 商業科3学級 (商業科2学級+情報処理科1学級)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 商業科については従来通りの教育活動が行える。 ⇔ 学校全体としての教員減には対応しなければならない。 ● 生徒減の中で、商業科の入学者数を維持できるかが懸念される。 ● 普通科が2学級減となり、地域の普通科希望者(大学進学希望者)の需要に対応できるかが懸念される。 ● 新高校としての特色をどのように出していくか、工夫が必要である。
⑤	普通科2学級 + 商業科3学級 (商業科1学級+情報処理科1学級 +新小学科1学級)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 商業科については、新しい小学科(国際ビジネス学科等)を設置することで、新高校の特色や方向性を示すことができ、学校の活性化へとつなげられる。 ● 新学科に関して地域のニーズと進路保障についての検討が必要である。 ● 普通科が2学級減となり、地域の普通科希望者(大学進学希望者)の需要に対応できるかが懸念される。

学科構成を考える際の視点

【普通科】

- ・ 大学進学率の向上(国公立大学合格者の増加) → 「文理総合型クラス」
- ・ 医療、看護、福祉系列への進学希望者への対応 → 「進路希望別クラス編成(医療・看護・福祉系クラス)」
- ・ その他の専門学校(主にビジネス系)への進学希望者への対応 → 「情報処理科との総合選択制」
- ・ 煩雑な選択教科、授業展開の整理

【商業科】

- ・ 高い就職率の維持・増進 → 「スーパープロフェッショナルハイスクール」
- ・ 情報処理科の低倍率の改善 → ・ 「アピールポイントの設定」
 - ・ 「くくり募集」
 - ・ 「学科改編」

【共通】

- ・ グローバル化への対応 → (普)「スーパーグローバルハイスクール」
(商)「国際ビジネス科(コース)」、「中国語、韓国語等の履修」
- ・ 地域連携 → 《参考(再掲)》『「地域創生」人材育成プロジェクト(地域コンサルタントの育成)」
徳島県立徳島商業高校(スーパープロフェッショナルハイスクールの取組)

※ 新高校において、何を重点と考えるかによって、学科構成(及び各学科での取り組み)が決定する。

【参考資料】学科の在り方に係る検討

1 背景としての国の動き

文部科学省から平成 26 年 6 月に出された「初等中等教育分科会高等学校教育部会 審議まとめ～高校教育の質の確保・向上に向けて～」では、高等学校を「進学や就職といった生徒の進路にかかわらず、中学校卒業後のほぼ全ての者が、社会で生きていくために必要となる力を共通して身に付けるとともに、自立に向けた準備期間を提供することのできる最後の教育機関」とし、高校教育の質の確保・向上に関する課題・基本的考え方として、「高校教育としての共通性を確保するとともに、多様な学習ニーズへのきめ細やかな対応が必要」としている。

「共通性の確保」については、全ての生徒が共通に身に付けるべき資質・能力として、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和を図るとともに、高等学校では、

- ・ 社会・職業への円滑な移行に必要な力
 - ・ 市民性（市民社会に関する知識理解、社会の一員として参画し貢献する意識など）
- も重視していくべきとしている。

また、「多様な学習ニーズへのきめ細やかな対応」については、

<各学科における課題と対応>として、

- ・ 普通科（進路意識の向上や、キャリア・職業教育など学校から社会への円滑な移行推進）
- ・ 専門学科（社会のニーズに応じた実践的な職業教育推進、高等教育との接続・連携）
- ・ 総合学科（中学校教職員・保護者の認知度向上）

<経済社会の変化等への対応>として、

- ・ キャリア教育・職業教育の一層の推進（職業観・勤労観を確立するための取組推進）
 - ・ 優れた才能や個性を伸ばす学習機会の提供（ハイレベルな学習機会や切磋琢磨する場の提供）
 - ・ グローバル人材の育成（豊かな語学力・コミュニケーション能力等を身に付けた人材の育成）
 - ・ ICT教育の推進（質の高い学びを実現するための効果的な授業の在り方の検討）
- 等としている。

また、次のような事業も実施されている。

- ・ スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業

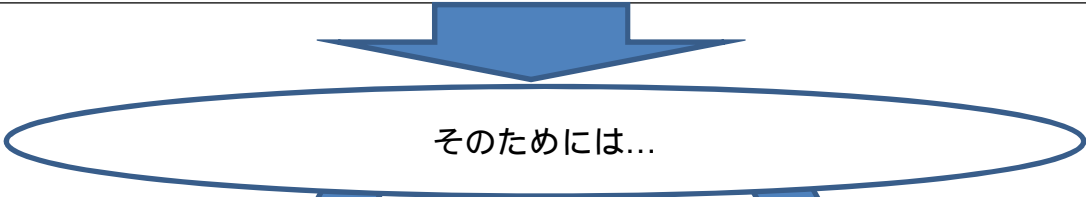
将来の国際的な科学技術関係人材を育成するため、先進的な理数教育を実施する高等学校等を「スーパーサイエンスハイスクール」として指定し、学習指導要領によらないカリキュラムの開発・実践や課題研究の推進、観察・実験等を通じた体験的・問題解決的な学習等を支援している。

本県では、致遠館高校が平成 18 年度より指定を受けている。

- ・ スーパーグローバルハイスクール（SGH）事業高等学校等におけるグローバル・リーダー育成に資する教育を通して、生徒の社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、もって、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を図るとしている。

- ・ スーパープロフェッショナルハイスクール（SPH）事業
 全国の高等学校から高度な知識・技能を身に付けた専門的職業人を育成するため、専攻科を含めた5年一貫のカリキュラムの研究や大学・研究機関等との連携など先進的な卓越した取組を行う専門高校（農業・工業・商業・水産・家庭・看護・情報・福祉の8学科）を指定している。

高等学校の位置付け
 進学や就職といった生徒の進路にかかわらず、中学校卒業後のほぼ全ての者が、社会で生きていくために必要となる力を共通して身に付けるとともに、自立に向けた準備期間を提供することのできる最後の教育機関



高校教育としての共通性の確保

「確かな学力」
 「豊かな心」
 「健やかな体」
 +
 「社会・職業への円滑な移行に必要な力」
 「市民性」

多様な学習ニーズへの対応

- ・ **各学科における対応**
 普通科（進路意識の向上、キャリア教育等）
 専門学科（社会のニーズに応じた実践的な職業教育、高等教育との接続・連携）
 総合学科（教育内容の理解促進）
- ・ **経済社会の変化等への対応**
 キャリア教育等推進
 優れた才能・個性への対応
 グローバル人材育成
 ICT教育推進 等

国で実施されている事業の例

- ・ SSH事業（将来の国際的な科学技術関係人材育成）
- ・ SGH事業（将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成）
- ・ SPH事業（高度な知識・技能を身に付けた専門的職業人を育成）

2 近年の本県の学科在り方に係る検討

高校教育改革プロジェクト会議における検討

- ・ 平成 23 年度 普通科に係る検討（大学受験力及び学力向上対策についての検討）
- ・ 平成 23、24 年度 専門学科・総合学科に係る検討
（人材育成に対する企業ニーズ把握のための懇話会実施、学力向上対策についての検討）
- ・ 平成 25 年度 キャリア教育に係る検討
- ・ 平成 26 年度 専門学科の在り方検討（中心的な役割を果たす学校や専攻科についての検討）

本年度は、普通科を含む「学科の在り方ワーキンググループ会議」を開催しており、生徒減少期における学科の在り方について検討を行う予定である。

3 全国的な取組の例

< 普通科等 >

ハイレベルな学習機会や場の提供を行う普通系専門学科を設置

（理数系）理数、数理科学、応用数理、サイエンスリサーチ、メディカル・サイエンス

（文理総合型）京都こすもす（人文社会系統、国際文化系統、自然科学系統）

（語学重視型）国際文化、国際教養、国際コミュニケーション、国際文化情報

（芸術スポーツ系）芸術、芸能文化、体育、スポーツ健康科学

グローバル人材の育成

スーパーグローバルハイスクール（SGH）事業(再掲)

国際バカロレア（日本語ディプロマ）認定に向けた取組

先進的な理数教育の実施

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業(再掲)

< 専門学科 >

社会のニーズに応じた実践的な職業教育

スーパープロフェッショナルハイスクール（SPH）事業(再掲)

例）SPH指定校取組事例

【農業】福岡県立福岡農業高校

都市園芸に関する専門的な技術及び技能と経営感覚を身につけたアグリスペシャリストの育成

- ・ 大学や農業研究センターと連携し、先端技術を導入した栽培実験・実習により栽培管理技術を向上させる。
- ・ 農業生産法人及び農業関連企業において経営的な視点や自立した農業経営に必要な経営方法を学ぶ。
- ・ 「食の6次産業化プロデューサー」の内容を学習し、栽培技術の向上だけでなく生産物の付加価値を高める企画や広報の在り方を研究する。
- ・ 産業現場で必要な資格を有し、活用できる人材を育成する。

【工業】千葉県立千葉工業高校

社会や地域のニーズを踏まえ、産学官連携のもとに、高度な科学技術に対応した科学的思考力を有し、モノづくりを通じて課題を解決する工学的センスとグローバルに活躍できる生徒を育てるプログラムの開発

- ・ 応用力と工学的センスを有し、工業に関する諸課題をグローバルな視点からも考えることができる生徒の育成を目指して、下記対応策を実践し、その効果を検証する。
 - 1 高度な科学技術に対応できる力と自発力の育成
 - 2 クロスカリキュラムを活用した効率的な学習カリキュラムの編成と反転授業の実践から、思考力・判断力・表現力の育成
 - 3 大学、企業と連携した高度先進科学・技術の学習を通して、「ものづくりの心」や「工学的センス」の育成
 - 4 外国人博士研究員（Post Doctor）や修士学生等の協力により、グローバルな視点を身に付けさせる教育の推進
 - 5 「工業系高校人材育成コンソーシアム千葉」を活用したインターンシップを実施することで、より生徒の目的意識、職業観、勤労観を育成

【商業】徳島県立徳島商業高校

Deep in Tokushima ~徳商版「地域創生」人材育成プロジェクト~

- ・ 地域コンサルタントの育成（地域のことをよく知り、様々な課題に対して柔軟に対応できる人材の育成）
- ・ 観光ガイド・商品開発力を持った人材の育成（地域の魅力を創出し、プロデュースできる人材の育成）
- ・ Glocal プロデューサーの育成（地域の魅力を世界に向けて発信できる能力を有し、人と人、企業と企業のネットワークを構築することができるグローバルなプロデューサーの資質を持つ人材の育成）

【家庭】岐阜県立大垣桜高校

CHANGE SAKURA ~技と心で羽ばたけ グローバルクリエイター育成プロジェクト~

[服飾デザイン科]

グローバルな視野から服飾に関わるものづくりやビジネスを取り上げ、総合的にファッションを世界に発信していくことができるファッションビジネスリーダーやグローバルファッションクリエイターを育成する。

- ・ 地元の繊維関連企業が有する高度な技術力、デザイン力を習得
- ・ 企業と連携しオリジナルテキスタイルを制作し、オリジナルデザインの洋服の提案・商品化、ブランド化
- ・ 国内外のファッション関連学校と連携し、最先端のファッション動向を把握

[食物科]

食文化の伝承や、よりよい暮らしを支え、健康的な「食」の企画・提案を行うなどの実践的な活動を通して、地域の食文化の発展に寄与するフードクリエイターを育成する。

- ・ 産学官の関係機関と連携して食のニーズを調査・分析し、地域農産物の特徴を生かしたオリジナルレシピや、商品・サービスの開発、食生活の改善等の提案

- ・ 食産業界で活躍している専門家を招聘し、講演会や講習会を開催、産業現場実習を実施

新高校設置準備委員会設置要領

平成14年10月21日
佐賀県教育委員会教育長決定
一部改正 平成17年4月 1日
一部改正 平成18年7月12日
一部改正 平成21年4月 1日
一部改正 平成27年4月 1日

(設 置)

- 第1条 佐賀県立高等学校再編整備実施計画に定める再編等によって設置される高校(以下「新高校」という。)の具体的な在り方等を検討するために、県立高等学校再編整備推進本部設置要綱第7条の規定に基づき、新高校設置準備委員会(以下「委員会」という。)を設置する。
- 2 委員会は、新高校ごとに別表のとおり設置する。

(所掌事項)

- 第2条 委員会は、次の各号に掲げる具体的な検討を行う。
- 一 新高校の教育内容及び管理運営等に関する事
 - 二 新高校の施設・設備に関する事
 - 三 新高校への円滑な移行に関する事
 - 四 前号に掲げるもののほか、検討を要する事

(組 織)

- 第3条 委員会の委員は、再編等整備の対象となる学校(以下「再編等対象校」という。)の校長、教職員、県教育委員会事務局関係者及び地域関係者のうちから教育長が委嘱する。
- 2 委員会には委員長及び副委員長を置き、再編等対象校関係委員の中から教育長が指名する。
 - 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代理する。
 - 4 委員長は、必要と認めるときは、委員会に作業部会を設置することができる。

(会 議)

- 第4条 委員会は、委員長が招集し、主宰する。
- 2 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者に委員会への出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(事務局)

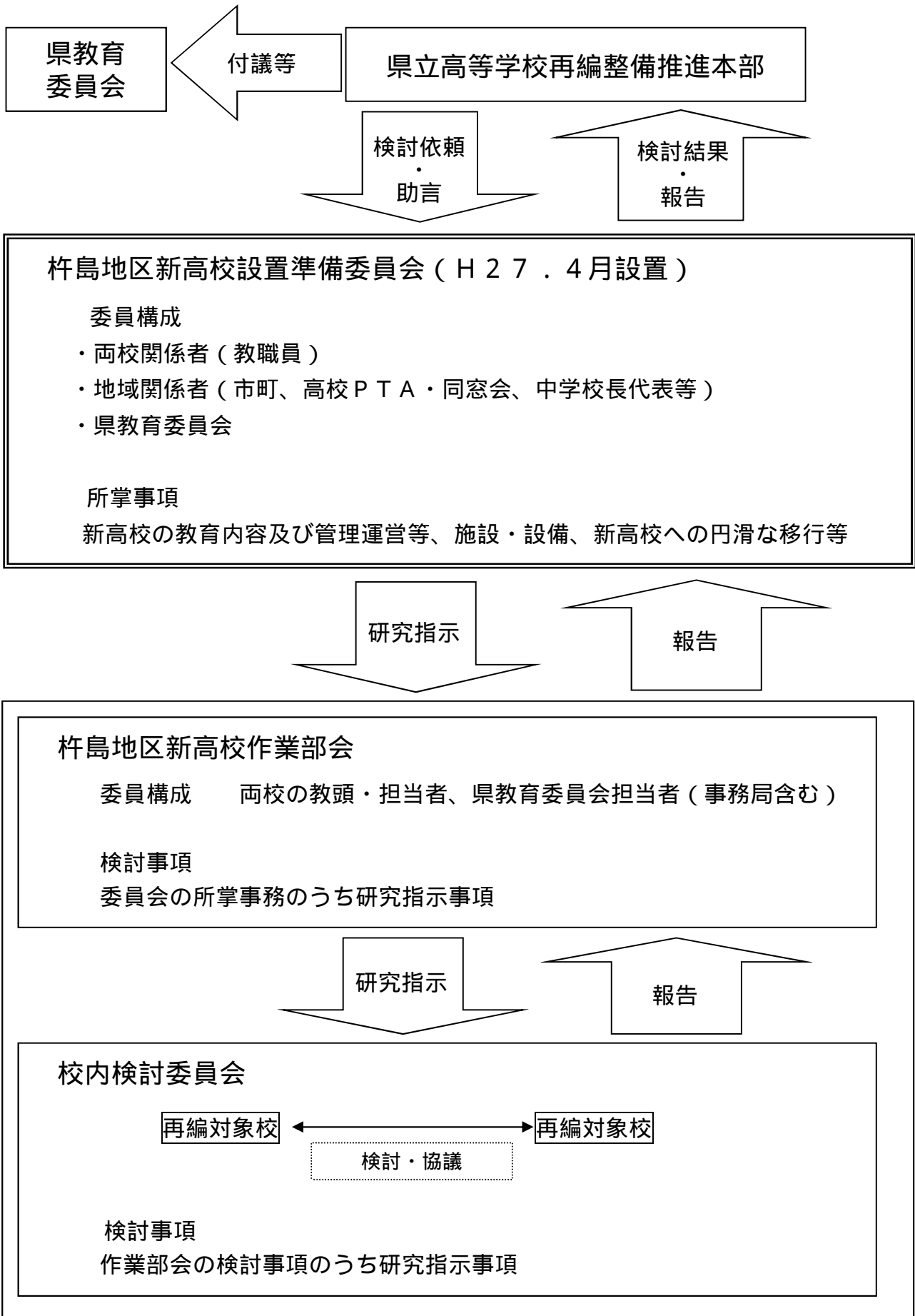
- 第5条 委員会の事務局は、委員長が所属する学校及び県立高校再編整備推進室に置く。

(補 足)

- 第6条 この要領に定めるもののほか、委員会及び作業部会の運営に必要な事項は委員長が委員会に諮って定める。

別表（第1条関係）

委 員 会 名	再 編 等 対 象 校
伊万里地区新高校 設置準備委員会	伊万里農林高等学校、伊万里商業高等学校
杵島地区新高校 設置準備委員会	白石高等学校、杵島商業高等学校
新巖木高校 設置準備委員会	巖木高等学校
鹿島地区新高校 設置準備委員会	鹿島高等学校、鹿島実業高等学校
嬉野地区新高校 設置準備委員会	塩田工業高等学校、嬉野高等学校



資料7 杵島地区新高校設置準備委員会委員構成

No.	所属・職名	氏名	備考	
1	白石高等学校学校校長	荒谷 弘幸	委員長・学校関係者	
2	杵島商業高等学校校長	木村 もと	副委員長・学校関係者	
3	白石高等学校教頭	本告 靖之	学校関係者	
4	杵島商業高等学校教頭	北島 直幸		
5	大町町教育長	前川 幸治	大町町	市町関係者
6	大町町生活環境課長	小木 誠		
7	白石町教育長	江口 武好	白石町	
8	白石町副町長	百武 和義		
9	武雄市教育長	浦郷 究	武雄市	
10	江北町教育長	赤坂 章	江北町	
11	白石高等学校 同窓会代表	川崎 光春	地元関係者	
12	杵島商業高等学校 同窓会代表	黒岩 勝弘		
13	白石高等学校 P T A代表	溝口 哲也		
14	杵島商業高等学校 P T A代表	田中 浩吉		
15	白石町立白石中学校校長	平川 年明	中学校関係者	
16	武雄市立川登中学校校長	植松 和彦		
17	副教育長（教育情報課長）	福田 孝義	県教委関係者	
18	教育政策課長	八谷 幸浩		
19	教職員課長	福地 昌平		
20	学校教育課長	松尾 敏実		
21	保健体育室長	三上 智一		
22	教育支援課長	源五郎丸 靖		
23	県立高校再編整備推進室長	甲斐 照章		
24	県立高校再編整備推進室 教育企画監	岩村 彰		
事務局	白石高等学校教諭	本村 邦彦		
		副島 博孝		
	杵島商業高等学校教諭	松浦 昌彦		
		中村 桂子		
県立高校再編整備推進室 企画主幹	上赤 真澄			
県立高校再編整備推進室 企画主査	椛島 秀樹			